



年中だより

R7.11.12 NO.23

個人製作 「もりのなかま づくり」

ねらい：・自分の思いやイメージを身近な素材を使って表現することを楽しむ。

「バムとケロのもりにウサギがいたらいいんじゃない？」「僕の好きなカブトムシもいるかもしれないよ！」という子どもたちの気づきから“なかまづくり”が始まりました。

そこから様々な材料や素材を使いながら、自分のイメージする“なかま”をつくり進めていきました。

顔は、新しい素材“ビニール”に触れさせたいという保育者の思いがあり、取り入れていきました。ビニールは身近な素材でありながらも衣装にして着るというイメージが強いのではないかと…他にも物を入れて形をつくったり、廃材に巻いて模様にしたりできることを知り、この先遊ぶ中で選択肢が広がればと思いました。

中に新聞紙を詰める時や目や口の顔パーツを貼る時など、ビニールならではの、シャカシャカ音やツルツルしているため押さえながらテープを貼らないとくっつかない、など感触や特性に気づいたりする姿がありました。その中で、友達同士で押さえ合ったり、アドバイスしたりしていました。

生き物や動物が大好きな子どもたちが多いため、どんななかまをつくるか悩んで決める姿が見られました。自分がイメージしたものをつくるためにどのような材料や素材が必要なのか…子どもたちのイメージが実現していくように、たくさんの材料の中から選べるよう準備していきました。

同じ生き物や動物を選んでいても表情や使っている材料や素材が一人一人違うため個性豊かな『もりのなかま』が完成しましたよ。



一緒につくっていく中で改めて、子どもたちの発想は本当に面白いと感じました。「高く飛べるように体操しているウサギをつくっているよ」「恐竜みたいなへびにしたい」など、どのようななかまをつくったか担任や友達に楽しそうに話す姿がありました。

ぜひ、当日も子どもたちの解説に耳を傾けて、頑張りを認めながら一緒にご覧くださいね。

○水彩画

「この色で塗りたいな」「大好きなものを描きたい」と真っ白な水彩画用紙を前にわくわくする子どもたち。絵の具の色や混ざり具合、筆の感触を楽しみながら、一人一人イメージを膨らませて描くことを楽しみました。「細かく描きたいから」と太い筆や細い筆を使い分けたり、オリジナルで描いたりとそれぞれが自分なりに考え、思いを筆に乗せて表現しました。遊びや生活の風景、想像する世界の一部を切り取ったような水彩画。その絵の中にはたくさんのストーリーがちりばめられていますので、お子さんの声を聞きながらご覧くださいね。



(見取り図)

